

国語科年間指導計画【3年古典探究(特進コース)】

■単位数

2

■使用教科書(出版社)

古典探究 古文編・漢文編(筑摩書房)

■目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語的・的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方の関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

■内容

〔知識及び技能〕
 (1) 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 ア 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通じて、語感を磨き語彙を豊かにすること。
 イ 古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めること。
 ウ 古典の文の成分の順序や関係、文章の構成や展開の仕方について理解を深めること。
 エ 古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めること。
 (2) 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 ア 古典などを読むことを通じて、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めること。
 イ 古典を読むために必要な文語のきまりや訓詁のきまりについて理解を深めること。
 ウ 時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めること。
 エ 先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。

〔思考力、判断力、表現力等〕

A 読むこと
 ア 文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えること。
 イ 文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えること。
 エ 必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価すること。
 オ 作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察すること。
 カ 古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすること。
 キ 古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすること。
 ク 関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めること。
 ケ 古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすること。

■評価の観点とその趣旨

(1) 知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。
(2) 思考・判断・表現	「読むこと」の領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方の関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。
(3) 主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めているとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

■指導計画

月	単元名	知識及び技能								思考力、判断力、表現力等								言語活動	教材	評価の観点及び評価方法	配当 予定 時数
		(1)				(2)				読むこと											
		ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク				
4	本文の展開を的確に捉える	●								●								当時の生活をまとめる	鶯にさらわれた赤子	(1)小テスト、定期テスト (2)ワークシート、小テスト、定期テスト (3)ワークシート、定期テスト	3
	社会や自然にたいする自分の考えを広げる		●												●		作者が感じたことを整理する	枕草子(上にさぶらふ御猫は)	(1)小テスト、定期テスト (2)ワークシート、小テスト、定期テスト (3)ワークシート、定期テスト	4	
5	古典作品を基に自分のものの見方、感じ方を広げる				●											●	故事成語について調べて発表する	断腸	(1)小テスト、定期テスト (2)ワークシート、小テスト、定期テスト (3)ワークシート、定期テスト	4	
	表現の特色について評価する												●				表現の特徴についてまとめる	古体詩(桃天、飲酒、送別など)	(1)小テスト、定期テスト (2)ワークシート、小テスト、定期テスト (3)ワークシート、定期テスト	5	
6	表現に注意して内容を的確に捉える												●				内容をまとめ、発表する	源氏物語(車争ひ)	(1)小テスト、定期テスト (2)ワークシート、小テスト、定期テスト (3)ワークシート、定期テスト	5	
	本文の展開を的確に捉える		●										●				展開についてグループで話し合う	源氏物語(病院の怪)	(1)小テスト、定期テスト (2)ワークシート、小テスト、定期テスト (3)ワークシート、定期テスト	5	
7	様々なテーマに対して自分の考えを広げる			●											●		自分の意見についてグループで検討する	史記(樊噲上衝冠)	(1)小テスト、定期テスト (2)ワークシート、小テスト、定期テスト (3)ワークシート、定期テスト	5	
	表現の特色について評価する	●												●			表現の効果について評価する	大鏡(中宮安子の嫉妬)	(1)小テスト、定期テスト (2)ワークシート、小テスト、定期テスト (3)ワークシート、定期テスト	5	
9	解釈をもとに作品の価値について考察する								●					●			価値についてグループで考える	離魂記	(1)小テスト、定期テスト (2)ワークシート、小テスト、定期テスト (3)ワークシート、定期テスト	5	
10	自分の知見と結び付け、考えを深める								●					●			内容を解釈して発表する	和泉式部日記	(1)小テスト、定期テスト (2)ワークシート、小テスト、定期テスト (3)ワークシート、定期テスト	4	
	古典作品を基に、自分の考えを広げる			●											●		現代と平安と比較をする	紫式部日記	(1)小テスト、定期テスト (2)ワークシート、小テスト、定期テスト (3)ワークシート、定期テスト	5	
11	書き手の意図を捉えて内容を解釈する								●					●			作者が伝えたいことを考える	老子、莊子、韓非子など	(1)小テスト、定期テスト (2)ワークシート、小テスト、定期テスト (3)ワークシート、定期テスト	5	
	多面的な視点から評価する				●										●		人物の視点に合わせて作品を評価する	俊頼輔政	(1)小テスト、定期テスト (2)ワークシート、小テスト、定期テスト (3)ワークシート、定期テスト	5	
12	書き手の意図を捉えて内容を解釈する		●											●			書き手の状況を踏まえ、内容をまとめる	野ざらし紀行	(1)小テスト、定期テスト (2)ワークシート、小テスト、定期テスト (3)ワークシート、定期テスト	5	
	表現に注意して内容を的確に捉える												●				表現の工夫を話し合う	建礼門院右京大夫集(なべて世の)	(1)小テスト、定期テスト (2)ワークシート、小テスト、定期テスト (3)ワークシート、定期テスト	5	
1	自分の知見と結び付け、考えを深める								●					●			自分の経験との関係性をまとめる	白居易(与微之書)	(1)小テスト、定期テスト (2)ワークシート、小テスト、定期テスト (3)ワークシート、定期テスト	5	
2																					
3																					
単位数		2	1	3	1	2	1	2	2	2	2	4	1	2	2	1				配当予定時数合計	75

教科	科目	単位数	学年	集団
公民	政治・経済	3	3年	特進コース

使用教科書	副教材等
最新政治・経済(実教出版)	テーマ別資料 政治・経済2026(東京法令出版) 最新政治・経済 演習ノート(実教出版)

科目の目標
<p>1. 社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けさせる。</p> <p>2. 国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことゝの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養わせる。</p> <p>3. よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深めさせる。</p>

評価の観点とその趣旨	
①知識・技能	現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事柄や、本質、特質及び動向を捉える基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けている。
②思考・判断・表現	現代の政治、経済、国際関係に関わる事柄から課題を見だし、その本質や特質、望ましい解決の在り方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。
③主体的に学習に取り組む態度	現代の政治、経済、国際関係に対する関心を高め、意欲的に課題を追求するとともに、国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進について客観的に考察しようとしている。
評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> 定期テスト 小テスト 振り返りの記述内容 	<ul style="list-style-type: none"> 課題、レポートなどの記述内容 グループワーク、プレゼンテーションなどの活動に対する取り組み

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4 5	現代日本の政治	民主政治、法、世界の政治制度、日本国憲法(成立過程、基本原理、自由権、平等権、社会権、参政権、請求権、新しい人権)、人権の国際化	日本国憲法の基本原理と人権について、民主政治の諸原理にも着目しながら理解している。	○		
			基本的人権や法の支配の重要性について、歴史的背景にも言及しながら考察し、それらを適切に表現している。		○	
6	現代日本の政治	平和主義、日米安保、国会、内閣、裁判所、地方自治、政党政治、選挙制度、世論と政治参加	公共の福祉について主体的に追究することを通して、個人と個人の権利の衝突を調整の方法を社会生活に生かそうとしている。			○
			日本国憲法の平和主義の内容と日米安保体制がうまれた背景、日本の統治機構と国政・地方自治、選挙制度について理解している。	○		
7	現代の日本経済	経済思想、市場機構、企業、国民所得と経済成長、金融、財政、戦後日本経済史	教科書の記述の内容理解を踏まえたうえで、平和主義や統治機構、地方自治、選挙について多面的に考察し、適切に表現している。		○	
			日本の政治制度を理解したうえで、身近な地域の興味関心を持ち、人口動向が地域に与える影響や一極集中にともなう課題の解決策などを積極的に追究している。			○
9	現代の日本経済	経済思想、市場機構、企業、国民所得と経済成長、金融、財政、戦後日本経済史	生産・分配・消費、希少性、トレードオフ、機会費用など、経済の根本的な概念について理解している。	○		
			資本主義経済の成立以降、社会がいかに変容し、それに伴い経済制度がどのように展開していったか、企業・政府の役割の変化と関連させて考察している。		○	
			経済成長による経済的な豊かさと幸福について、数値化することが困難な経済活動や生活の諸行動をどのように評価するべきかという観点から、主体的に考えを導きだそうとしている。			○

10	現代の日本経済	中小企業、農業、消費者問題、公害・環境問題、労働問題、社会保障	典型的な消費者問題や悪質商法にはどのようなものがあるかなど、経済社会の一員として必要な知識を有している。	○		
			人口減少社会が直面する経済的課題について協働的に考察したうえで、そのための経済政策を選択・判断し、表現している。		○	
			よりよい社会の実現のために、他者との協働もはかりながら、経済学の視点から多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。			○
11	現代の国際政治	国際社会と国際法、国際連合、人種・民族問題、軍拡・軍縮、日本の外交と国際関係	領土問題など、国際問題がなぜ生じるのか、また、どのように解決することが望まれているのかを理解している。	○		
			国連改革・安保理改革の必要性など国際社会が抱える政治的問題について、協働的に考察・構想し、それらを適切に表現している。		○	
			国際貢献について主体的に追究し、政府レベルや企業レベル、市民レベルの観点から、課題を意欲的に解決しようとしている。			○
12	現代の国際経済	貿易と国際収支、外国為替市場、戦後国際経済史、地域経済統合・グローバル化、新興国・途上国、地球環境問題、資源・エネルギー、経済協力と日本の役割	円高や円安が日本経済に与える影響について、輸入業者や輸出業者の具体的な取引をもとに理解している。	○		
			グローバル化と地域的経済統合など、賛否の分かれる国際経済上の問題に対して、自由と公正の観点から協働的に考察し、適切に表現している。		○	
			世界の貧困状況やそれを解消するための取り組みについて興味関心をもち、「国際経済格差の是正を探究するための意欲を高め			○

教科	科目	単位数	学年	集団
数学	数学ⅠAⅡB演習	3	3年	特進コース 文系

使用教科書	副教材等
	トライEX NEO 数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B・C 受験編

科目の目標
<p>(1)数と式、図形と計量、2次関数、データの分析、図形の性質、場合の数と確率、いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数、微分・積分、数列及び統計的な推測の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理する技能を身に着ける。</p> <p>(2)命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて変形する力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力、図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統一的・発展的に考察したり、離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。</p> <p>(3)数学の良さを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	数と式、図形と計量、2次関数、データの分析、図形の性質、場合の数と確率、いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数、微分・積分、数列及び統計的な推測の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理する技能を身に着ける。
② 思考・判断・表現	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて変形することができる。図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現することができる。関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察することができる。社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりすることができる。図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察することができる。不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断することができる。数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統一的・発展的に考察したり、離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を身につける。
③ 主体的に学習に取り組む態度	数学の良さを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。

評価方法
<p>知識・技能の評価:テスト、小テスト、レポート課題の点数をもとに評価する。</p> <p>思考・判断・表現の評価:テスト、小テストの点数、レポート課題の点数をもとに評価する。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度:知識・技能や思考・判断・表現の評価をふまえながら、テストの点数、授業内でのレポートへの取り組み方、授業後の振り返り等もとに評価する。</p>

学習計画						
期間	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4 5 7	<ul style="list-style-type: none"> 数と式 2次関数 図形と計量 データの分析 場合の数と確率 図形の性質 		二次の展開公式及び因数分解の公式の理解を深める。	○		○
			二次関数の式とグラフの関係について、多面的に考察する。		○	○
			正弦定理や余弦定理を用いて三角形の辺の長さや角の大きさを求める。	○		○
			データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察する。		○	○
			確率の意味や基本的な法則について理解を深め、確率や期待値を求める。	○		○
			三角形や円、空間図形に関する基本的な性質について理解する。	○		○
9 1 2	<ul style="list-style-type: none"> 式と証明 複素数と方程式 図形と方程式 三角関数 指数・対数 微分法・積分法 数列 統計的な推測 		因数定理について理解し簡単な高次方程式について因数定理などを用いてその解を求めることができる。	○		○
			座標平面上の直線や円を方程式で表すことができる。	○		○
			三角関数の加法定理や2倍角の公式、三角関数の合成について理解できる。	○		○
			指数関数及び対数関数の式とグラフの関係について、多面的に考察することができる。		○	○
			微分係数や導関数の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の導関数を求めることができる。	○		○
			等差数列と等比数列について理解し、それらの一般項や和を求めることができる。	○		○
1 2	<ul style="list-style-type: none"> 総合演習 		二項分布と正規分布の性質や特徴について理解できる。	○		○

教科	科目	単位数	学年	集団
数学	数学C	2	3年	特進コース

使用教科書	副教材等
数研出版 高等学校 数学C	4プロセス 数学C

<p>科目の目標</p> <p>(1)ベクトル、複素数平面、式と曲線についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理する技能を身に着ける。</p> <p>(2)ベクトルやその内積の基本的な性質などを用いて、平面図形や空間図形の性質を見いだしたり、多面的に考察できる力、複素数平面における図形の移動などに関連付けて、複素数の演算や累乗根などの意味を考察ができる力、放物線、楕円、双曲線を相互に関連付けて捉え、考察する力を養う。</p> <p>(3)数学の良さを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	数と式、図形と計量、2次関数、データの分析、図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理する技能を身に着ける。
② 思考・判断・表現	ベクトルやその内積の基本的な性質などを用いて、平面図形や空間図形の性質を見いだしたり、多面的に考察できる力、複素数平面における図形の移動などに関連付けて、複素数の演算や累乗根などの意味を考察ができる力、放物線、楕円、双曲線を相互に関連付けて捉え、考察する力を身につける。
③ 主体的に学習に取り組む態度	数学の良さを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。
評価方法	
<p>知識・技能の評価: テスト、小テスト、レポート課題の点数をもとに評価する。</p> <p>思考・判断・表現の評価: テスト、小テストの点数、レポート課題の点数をもとに評価する。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度: 知識・技能や思考・判断・表現の評価をふまえながら、テストの点数、授業内でのレポートへの取り組み方をもとに評価する。</p>	

学習計画				評価の観点		
期間	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	①	②	③
4	・平面上のベクトル	・ベクトルとその演算	ベクトルの内積及びその基本的な性質について理解できる。	○		○
5		・ベクトルと平面図形	実数などの演算の法則と関連付けて、ベクトルの演算法則を考察できる。		○	○
6	・空間のベクトル	・空間のベクトル	座標及びベクトルの考えが平面から空間に拡張できることを理解できる。	○		○
7			ベクトルやその内積の基本的な性質などを用いて、平面図形や空間図形の性質を見いだしたり、多面的に考察できる。		○	○
9	・複素数平面	・複素数平面	複素数平面と複素数の極形式、複素数の実数倍、和、差、積及び商の図形的な意味を理解できる。	○		○
10			複素数平面における図形の移動などに関連付けて、複素数の演算や累乗根などの意味を考察できる。		○	○
11	・式と曲線	・2次曲線	放物線、楕円、双曲線が二次式で表されること及びそれらの二次曲線の基本的な性質について理解できる。	○		○
12		・媒介変数表示と極座標	放物線、楕円、双曲線を相互に関連付けて捉え、考察できる。		○	○
1	・総合演習			○	○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
外国語(英語)	英語コミュニケーションⅢ	4	3年	特進コース

使用教科書	副教材等
ENRICH LEARNING ENGLISH COMMUNICATION Ⅲ	ENRICH LEARNING ENGLISH COMMUNICATION Ⅲ WORKBOOK システム英単語 5訂版

<p>科目の目標</p> <p>(1)聞くこと 日常的话题について、話される語句や文、情報量において多くの支援を活用すれば必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。</p> <p>(2)話すこと[やりとり] 日常的话题について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝えあったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができるようにする。</p> <p>話すこと[発表] 日常的话题について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。</p> <p>(3)読むこと 日常的话题について、使用する語句や文、情報量において多くの支援を活用すれば必要な情報を読み取り書き手の意図を把握することができるようにする。</p> <p>(4)書くこと 日常的话题について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めている。 ・聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。
② 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解する。 ・これらを活用して、適切に表現したり伝え合ったりする。
③ 主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自立的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評価方法	
<p>ペーパーテスト</p> <p>パフォーマンステスト</p>	

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	ウェブ記事	Unit 1	記事を読んだり、インタビューを聞いたりして概要を把握することができる。	○	○	
	インタビュー	Speaking Strategies 1	ある写真について、適切な表現を用いて正確に伝え合うことができる。		○	○
6	ウェブ記事	Unit 2	記事を読んだり、インタビューを聞いたりして概要を把握することができる。	○	○	
	インタビュー		教育におけるAIの利点について、複数の段落で論理的に書くことができる。		○	
9	物語	Unit 3	物語を読み、流れと教訓を読み取ることができる。	○	○	
	ストーリーテリング		自分が読んだ民話について、起承転結を意識してわかりやすく伝えることができる。		○	○
11	ニュース記事	Unit 4	タイムカプセルについてのニュース記事やディスカッションの概要を把握することができる。	○	○	
	スピーキング	Speaking Strategies 3	自分の意見を、具体的な根拠を含めて伝え合うことができる。		○	○
1	ブログ記事	Unit 5	学生生活についてのブログの記事を読み、一般論と個別の体験を読み取ることができる。	○	○	
	エッセイ		海外での生活について、2つの観点から論理的に詳しく書くことができる。		○	

教科	科目	単位数	学年	集団
外国語	論理・表現Ⅱ	2	3年	特進コース

使用教科書	副教材等
EARTHRISE English Logic and Expression II Standard	Next Stage 英文法・語法問題

<p>科目の目標</p> <p>(1) 話すこと[やりとり] 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝えあったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができるようにする。</p> <p>(2) 話すこと[発表] 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。</p> <p>(3) 書くこと 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。</p>
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。
② 思考・判断・表現	・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解する。 ・これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりする。
③ 主体的に学習に取り組む態度	・聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評価方法	
ペーパーテスト パフォーマンステスト	

学習計画						
期間	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
一学期中間テスト	紹介文 レビュー スピーチ原稿 ニュースレポート	Part1 Lesson1 Part1 Lesson2 Part1 Lesson3 Part1 Lesson4	伝統的な日本の文化について、ペアで紹介し合うことができる。			○
			これまで行った旅行先について、適切な助動詞を用いて、50語程度でレビューを書くことができる。	○		○
			自分の昼食のバーチャル・ウォーターの量について、30秒程度の発表を行うことができる。		○	○
			最近のニュースについて、不定詞・動名詞を用いて、60語程度でレポートを書くことができる。	○	○	○
一学期期末テスト	ブログ 意見 意見(比較) スピーチ	Part1 Lesson5 Part1 Lesson6 Part1 Lesson7 Part1 Lesson8	自分の好きな有名人について、紹介するブログを作成することができる。		○	○
			エシカルファッションやオンラインショッピングについて、自分の意見を理由とともに述べるることができる。		○	○
			紙と電子書籍どちらが好きか、適切な比較表現を用いて、60語程度で意見を書くことができる。	○	○	
			私たちの生活を大きく変えた発明について、30秒程度の発表を行うことができる。		○	○
二学期中間テスト	メール テキストメッセージ ロールプレイ アドバイス	Part2 Lesson1 Part2 Lesson2 Part2 Lesson3 Part2 Lesson4	相手に断りと謝罪を伝えるメールを50語程度で作成することができる。		○	○
			スピーチを聞いた感想を伝えるテキストメッセージを60語程度で作成することができる。		○	○
			台湾フードフェスティバルに誘うロールプレイを、クラスで実演することができる。		○	○
			健康維持や睡眠不足に悩んでいる友だちに対して、アドバイスをすることができる。		○	○
二学期期末テスト	メール 発表 スピーチ	Part2 Lesson5 Part2 Lesson6 Part2 Lesson7	ボランティアの主催者宛てに、活動への参加許可を依頼するメールを60語程度で書くことができる。		○	
			都会と田舎のどちらに住みたいかについて、30秒程度の発表を行うことができる。		○	○
			生徒会候補者紹介のポスターを作成し、それを基にスピーチをすることができる。		○	○
学年末テスト	例示・列挙 比較・対照 原因・結果	パラグラフ構成① パラグラフ構成② パラグラフ構成③ パラグラフ構成④	例示・列挙されている情報をもとに、自分の意見をクラスに発信することができる。			○
			比較・対照されている情報をもとに、自分の意見を50語程度で書くことができる。		○	
			原因・結果をもとにパートナーとやり取りをすることができる。			○
			時間的順序・手順を考えて、パラグラフの形式で文章を書くことができる。		○	

教科	科目	単位数	学年	集団
保健体育	体育	2	3年	3学年

使用教科書	副教材等
	ステップアップ高校スポーツ(大修館書店)

科目の目標 体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。 (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 (3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	運動の合理的、計画的な実践を通して、 ・運動の多様性や体力の必要性について理解している。 ・運動が豊かに継続することができるようにするための技能を身に付けている。
② 思考・判断・表現	自己や仲間の課題や豊かなスポーツライフを継続するための課題を発見し、 ・合理的、計画的な解決に向けて思考し判断する力を身に付けている。 ・解決の仕方や気付いたこと等について自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身に付けている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	運動における競争や協働の経験を通して、 ・公正、協力、責任、参画、共生などの意欲を高めようとしている。 ・健康・安全を確保したり、運動を主体的に取り組もうとしている。

評価方法
・運動の知識・技能の点検、確認、分析(スキルテスト、定期テスト、発表会、学習プリント・ノート等) ・記述の点検、確認、分析(学習プリント・ノート、グループワーク等) ・取組状況の観察、確認(グループ活動の姿勢、安全性の確保、授業への取組状況 等)

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	体づくり運動	体ほぐしの運動 (集団行動、体ほぐし)	集合、整頓、列の増減、方向変換などの仕方を理解し、行動できる。	○		
			定期的・計画的に運動を継続することは、心身の健康、健康や体力の保持増進につながる意義があることを理解できる。	○		
			いろいろな体ほぐしの運動を行うことを通して、気付いたり、仲間と関わりあったりしている。		○	
			集団行動や体ほぐし運動を自主的に取り組むとともに、健康・安全を確保し活動している。			○
5	球技	ネット型	選択した球技において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて、学習した具体例を挙げている。	○		
			役割に応じて、拾ったりつないだり打ち返したりすることができる。	○		
			選択した球技について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。		○	
			球技の学習に自主的に取り組もうとしている。			○
		ゴール型	球技において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて、理解している。	○		
			安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。	○		
			攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。		○	

			自主的に取り組み、互いに助け合い、教え合おうとしている。			○
6	水泳	クロール、平泳ぎ	各種目で用いられる技術の名称やポイントを理解し、それぞれの技術を実践することができる。	○		
			合理的な動きと自己の動きを比較して、成果や改善すべきポイントを見付けることができる。		○	
			自主的に取り組むとともに、事故防止の心得を遵守し健康・安全を確保している。			○

7	体育理論	生涯スポーツの見方・考え方 ライフスタイルに応じたスポーツ	スポーツの文化的価値や、心身の健康保持増進・生活の質(QOL)の向上に果たす役割を理解できる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			ライフステージ(発育期、成人期、高齢期など)に応じた心身の変化と、適切なスポーツの関わり方を理解できる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			生涯にわたってスポーツを享受することの意義について、多角的な視点から自分の考えをまとめることができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			スポーツの多様な価値を認め、日常生活の中で積極的に運動に親しもうとする意欲を持つことができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
9 10	体づくり運動	実生活に生かす運動の計画 (新体力テスト、体力を高める)	運動には体力向上の原則があることを理解し、運動のねらいやバランスを考え、自分にあった運動を計画し取り組むことができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			運動のねらいや体力の程度を踏まえ、自己や仲間の課題に応じた強度、時間、回数、頻度を設定することができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			自主的に取り組むとともに、危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保すること。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
11	球技	ベースボール型	身体の軸を安定させてバットを振りぬくことができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			移動しながらボールを捕ること、一連の動きでねらった方向へ投げることができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			バット操作、ボール操作及びボールを持たないときの動きなどの改善についてについてのポイントを発見している。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			自己やチームの課題の解決に向けて、自己の考えを述べたり相手の話を聞いたりしている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	ダンス	現代的なリズムのダンス (女子)	ダンスには、その踊りの特徴と表現の仕方があることを理解している。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			リズムの取り方や動きの連続のさせ方を組み合わせて、動きに変化を付けて踊ることができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			ダンスの特徴に合わせて、よい動きや表現と自己や仲間の動きや表現を比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間と伝え合い、合意形成を図っている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			課題について、互いに助け合い教え合おうとしている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
12	体育理論	スポーツを推進する取り組み	行政や地域の役割、スポーツ環境の整備、共生社会の実現に向けた推進体制について正しく理解できる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			スポーツ推進のための課題を把握し、誰もが平等にスポーツを享受できる環境のあり方について検討できる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			スポーツを支える活動の重要性を認識し、より良いスポーツ環境の形成に協力・参画することができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
1 2	球技	ゴール型	選択した球技において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて、理解している。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			自主的に取り組み、互いに助け合い、教え合おうとしている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2	体育理論	豊かなスポーツライフの創造	科学的な知見に基づき、自分に適したスポーツプランの設計方法を習得できる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			卒業後のライフスタイルを展望し、無理なく継続できる合理的な「マイ・スポーツプラン」を作成できる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
			作成したプランに基づき、生涯にわたる豊かなスポーツライフを自ら創造しようとする態度を形成できる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

教科	科目	単位数	学年	集団
理科	化学基礎	2	2年	特進コース文系

使用教科書	副教材等
新編 化学基礎(数研出版)	改訂版 リードLightノート化学基礎(数研出版)

科目の目標
<p>物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を以下の通り育成することを目指す。</p> <p>(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につけることができる。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究することができる。</p> <p>(3) 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究する態度をもつことができる。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 物質とその変化について理解することができる。 実験に関して、必要な観察や基本的な技能を身につけることができる。
② 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 物質やその変化に関して課題を発見し、物質の結合の変化に着目して解決の方法を思考し、判断するとともに、それらを表現することができる。
③ 主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 物質とその変化に関心をもつことができる。 日常生活と学習事項の関連性に対し、疑問をもつことができる。
評価方法	
<p>知識・技能: 定期テスト、小テスト、授業プリント、ノート等</p> <p>思考・判断・表現: 授業プリント、グループワークの取組等</p> <p>主体的に学習に取り組む態度: 授業振り返りシート、課題や提出物の取組状況等</p>	

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4 5 6	化学と人間生活	化学と物質 化学の特徴 物質の分離・生成 単体と化合物 熱運動と物質の三態	単体や化合物、粒子の熱運動の関係について理解し、物質の分離や生成方法について実験を通じて身につけている。	○		
			日常にある物質を単体や化合物と判断したり、熱運動と温度の関係を表現することができる。		○	
			学習事項に対して、日常と結び付けて疑問をもち、解決を図ることができる。			○
6 7	物質の構成	物質の構成粒子 原子の構造 電子配置と周期表	原子の構造やその構成粒子について理解し、周期表と関連付けて考えることができる。	○		
			各元素の性質について、周期表の元素の位置関係から説明することができる。		○	
			学習事項に対して、日常と結び付けて疑問をもち、解決を図ることができる。			○
9 10	物質の構成	物質と化学結合 イオンとイオン結合 分子と共有結合 金属と金属結合	イオン結合、共有結合、金属結合の違いについて理解することができる。	○		
			結合の違いにより各物質にどのような違いが生じるのかを思考し、表現することができる。		○	
			学習事項に対して、日常と結び付けて疑問をもち、解決を図ることができる。			○
11 12	物質の変化とその利用	物質と化学反応式 物質質量 化学反応式	原子量、物質質量について理解し、化学反応の量的関係について求めることができる。	○		
			物質質量が意味することについて説明を行うことができ、化学反応に関する量の関係について表現することができる。		○	
			学習事項に対して、日常と結び付けて疑問をもち、解決を図ることができる。			○
1 2	物質の変化とその利用	化学反応 酸・塩基と中和 酸化と還元 化学が拓く世界	酸と塩基の関係、酸化と還元について理解し、実験を通じて身につけることができる。	○		
			中和における量的関係や酸化還元反応における電子の授受を思考し、減少について表現することができる。		○	
			学習事項に対して、日常と結び付けて疑問をもち、解決を図ることができる。			○

教科	科目	単位数	学年	集団
理科	生物基礎	2	3年	特進コース

使用教科書	副教材等
改訂版 新編 生物基礎(数研出版)	三訂版 リードLightノート生物基礎 (数研出版)

<p>科目の目標</p> <p>日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を身に付けることを目指す。</p> <p>・日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。</p> <p>・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>・生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができています。
② 思考・判断・表現	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしている。

<p>評価方法</p> <p>知識・技能: 定期テスト、小テスト、授業プリント、ノート等 思考・判断・表現: 授業プリント、グループワークの取組等 主体的に学習に取り組む態度: 授業振り返りシート、課題や提出物の取組状況等</p>

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
一学期 中間テスト	生物の特徴	生物の多様性と共通性 エネルギーと代謝 呼吸と光合成	・生物がもつ共通性について理解している。 ・生命活動にはエネルギーが必要であることを理解できる。	○		
			・さまざまな生物の比較に基づいて、すべての生物に見られる特徴について考え、共通性を見いだすことができる。 ・学習事項に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。		○	
一学期 期末テスト	遺伝子とのはたらき	遺伝情報とDNA 遺伝情報の複製と分配 遺伝情報の発現	・DNAの構造および塩基の相補性を理解する。 ・体細胞分裂の過程でDNAが複製され、分配されることを理解する。	○		
			・DNAの構造の模式図をもとに、DNAが4種類の塩基からなること、塩基の結合はAとT、GとCの間で起こるという規則性に気づき、説明できる。 ・学習事項に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。		○	
二学期 中間テスト	ヒトの体内環境の維持	体内での情報伝達と調節 免疫のはたらき	・自律神経系と内分泌系が、からだを調節するしくみを理解する。 ・免疫のはたらきを理解する。	○		
			・運動によって心拍数が増加するしくみを考察し、説明できる。 ・学習内容をもとに、病原体に対する免疫のはたらきを考察でき ・学習事項に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。		○	
二学期 期末テスト	生物の多様性と生態系	植生と遷移 植生の分布とバイオーム	・植生の遷移の過程と、遷移が進行する要因について理解する。 ・世界や日本に見られるさまざまなバイオームの成立条件を理解する。	○		
			・遷移の過程を示した資料をもとに遷移の過程で裸地から低木林に移り変わる要因、植生の樹種が交代する要因について考察し説明できる。 ・学習事項に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。		○	
三学期 学年末テスト	生物の多様性と生態系	生態系と生物の多様性 生態系のバランスと保全	・生態系がどのように構成されているのかを理解する。 ・生態系保全のために行われている活動を理解する。	○		
			・生態系における個体数の変化を調べた実験結果に基づき、ある生物が種多様性に対して果たす役割を考察し、説明できる。 ・学習事項に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。		○	

教科	科目	単位数	学年	集団
理科	生物基礎演習	2	3年	特進コース(文選択)

使用教科書	副教材等
新編 生物基礎(数研出版)	改訂版 つかむ生物基礎 2026大学入試共通テスト対策(浜島書店)

<p>科目の目標</p> <p>問題演習を通じて基本的な問題を解く力を身に付けるとともに、日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができています。
② 思考・判断・表現	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしている。

評価方法
<p>知識・技能: 定期テスト、小テスト、授業プリント、ノート等</p> <p>思考・判断・表現: 授業プリント、グループワークの取組等</p> <p>主体的に学習に取り組む態度: 授業振り返りシート、課題や提出物の取組状況等</p>

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
一学期 中間テスト	生物の特徴	生物の多様性と共通性 エネルギーと代謝 呼吸と光合成	<ul style="list-style-type: none"> 生物がもつ共通性について理解している。 生命活動にはエネルギーが必要であることを理解できる。 	○		
			<ul style="list-style-type: none"> さまざまな生物の比較に基づいて、すべての生物に見られる特徴について考え、共通性を見いだすことができる。 学習事項に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。 		○	
一学期 期末テスト	遺伝子とのはたらき	遺伝情報とDNA 遺伝情報の複製と分配 遺伝情報の発現	<ul style="list-style-type: none"> DNAの構造および塩基の相補性を理解する。 体細胞分裂の過程でDNAが複製され、分配されることを理解する。 	○		
			<ul style="list-style-type: none"> DNAの構造の模式図をもとに、DNAが4種類の塩基からなること、塩基の結合はAとT、GとCの間で起こるという規則性に気づき、説明できる。 学習事項に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。 		○	○
二学期 中間テスト	ヒトの体内環境の維持	体内での情報伝達と調節 免疫のはたらき	<ul style="list-style-type: none"> 自律神経系と内分泌系が、からだを調節するしくみを理解する。 免疫のはたらきを理解する。 	○		
			<ul style="list-style-type: none"> 運動によって心拍数が増加するしくみを考察し、説明できる。 学習内容をもとに、病原体に対する免疫のはたらきを考察できる。 学習事項に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。 		○	○
二学期 期末テスト	生物の多様性と生態系	植生と遷移 植生の分布とバイオーム	<ul style="list-style-type: none"> 植生の遷移の過程と、遷移が進行する要因について理解する。 世界や日本に見られるさまざまなバイオームの成立条件を理解する。 	○		
			<ul style="list-style-type: none"> 遷移の過程を示した資料をもとに遷移の過程で裸地から低木林に移り変わる要因、植生の樹種が交代する要因について考察し説明できる。 学習事項に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。 		○	○
三学期 学年末テスト	生物の多様性と生態系	生態系と生物の多様性 生態系のバランスと保全	<ul style="list-style-type: none"> 生態系がどのように構成されているのかを理解する。 生態系保全のために行われている活動を理解する。 	○		
			<ul style="list-style-type: none"> 生態系における個体数の変化を調べた実験結果に基づき、ある生物が種多様性に対して果たす役割を考察し、説明できる。 学習事項に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。 		○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
地理歴史	日本史探究	2	3年	特進コース文系

使用教科書	副教材等
詳説 日本史(山川出版社)	図説 日本史通覧, 詳説 日本史整理ノート

科目の目標
社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
② 思考・判断・表現	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
③ 主体的に学習に取り組む態度	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> 学習内容への取り組み 発問評価 課題、提出物の内容 小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> 定期テスト 振り返りの内容 対話的な学びに対する取り組み

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	第9章 幕藩体制の成立と展開	幕藩体制の成立	江戸幕府の対外政策の推移と世界の諸国や諸地域の動向を踏まえ、鎖国に至った経緯を多面的・多角的に考察する。		○	
		幕藩社会の構造	幕藩社会における身分制の構造や諸産業の発達を理解する。	○		
		幕政の安定	戦乱の終結を機に、幕政が文治政治に転換する過程を多面的・多角的に考察する。		○	
		経済の発展	諸産業の発達に伴って、貨幣経済も発達したことを理解する。	○		
		元禄文化	町人が中心となって元禄文化が担われたことを理解する。	○		
5	第10章 幕藩体制の動揺	幕政の改革	享保の改革が行われるに至った社会的背景やその成果を多面的・多角的に考察する。		○	
		宝暦・天明期の文化	幕府政治のあり方を批判する思想や近代的な合理主義が生まれたことを理解する。	○		
		幕府の衰退と近代への道	寛政の改革と天保の改革が行われるに至った社会的背景やその成果を多面的・多角的に考察する。		○	
6	第11章 近世から近代へ	化政文化	三都の繁栄を背景として民衆を基盤とする町人文化が最盛期を迎えたことを理解する。	○		
		開国と幕末の動乱	幕府・朝廷・諸藩の立場から幕末の動乱の要因とその結果を多面的・多角的に考察する。		○	
		幕府の滅亡と新政府の発足	大政奉還から明治新政府の発足に至るまでの歴史的展開を理解する。	○		
7	第12章 近代国家の成立	歴史資料と近代・現代の展望	近代・現代の日本の産業のあり方や課題についての仮説を立てる。			○
		明治維新と富国強兵	明治国家の国家目標とそれによって形作られた近代社会のあり方から時代を通過する問いを表現する。			○
8	第13章 近代国家の展開	立憲国家の成立	民権派と明治政府の立場から大日本帝国憲法の発布に至るまでの歴史的展開を多面的・多角的に考察する。		○	
		日清・日露戦争と国際関係	日清・日露戦争による日本の国際的地位の上昇と韓国併合に至る歴史的展開を理解する。	○		
9	第14章 近代の産業と生活	第一次世界大戦と日本	第一次世界大戦が日本の政治に与えた影響を理解する。	○		
		ワシントン体制	パリ講和会議とワシントン会議による国際協調体制の形成を日本と欧米の立場から多面的・多角的に考察する。		○	
		近代産業の発展	日本の近代化において製糸業と紡績業が果たした役割を理解する。	○		
10	第15章 恐慌と第二次世界大戦	近代文化の発達	明治文化における新旧と西洋・東洋などの独特な二元性のあり方を理解する。	○		
		市民生活の変容と大衆文化	第一次世界大戦が日本の経済に与えた影響を多面的・多角的に考察する。		○	
		恐慌の時代	金輸出禁止、金解禁、金輸出再禁止という経済政策の変化の背景にある日本経済の変化を多面的・多角的に考察する。		○	
11	第16章 占領下の日本	軍部の台頭	満洲事変によって日本が国際社会の中で孤立していく歴史的展開を理解する。	○		
		第二次世界大戦	日独伊三国同盟の形成から第二次世界大戦の終戦に至るまでの歴史的展開を多面的・多角的に考察する。		○	
		占領と改革	日本国憲法制定の過程を日本側の動向にも着目し、多面的・多角的に考察する。		○	
12	第17章 高度成長の時代	冷戦の開始と講和	朝鮮戦争による日本の安全保障環境の変化と日米安保体制の形成の歴史的意味を理解する。	○		
		55年体制	自由民主党と日本社会党による55年体制の形成と展開が日本の戦後政治の基本構造となることを理解する。	○		
1	第18章 激動する世界と日本	経済復興から高度経済成長へ	高度経済成長による日本社会の変化の様相を理解する。	○		
		経済大国への道	高度経済成長の終焉からバブル経済の発生に至るまでの日本経済の変化を多面的・多角的に考察する。		○	
2	第18章 激動する世界と日本	冷戦の終結と日本社会の変容	近現代史の学習を踏まえ、今後の国際社会において日本が果たすべき役割に対する問いを表現する。			○
		現代日本の課題の探究	災害に関して問いを設定して探究を行い、レポート発表を行う。			○

